

令和6年度授業改善推進プラン 教科名 社会

学年	指導上の課題	具体的な授業改善策（補充・発展等）
1年	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校段階での学習の定着に大きな個人差がある。 ・資料・グラフの読み取りなど、数字の捉え方や計算に苦手意識がある。 ・学んだことを自分の言葉で表現する力に課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○小学校での既習事項についても、適宜授業で補充しながら生徒の苦手意識をなくしていく。 ○資料やグラフの読み取りについては、生徒のイメージしやすい内容と置き換える、映像資料など視聴覚教材を用いる等、理解につなげる。 ・アクティブラーニングを取り入れ、生徒が対話をしながら探究活動を行うようにする。また、資料やグラフを用いて自分の言葉でわかりやすく発表する活動を取り入れ、言語能力の向上を図る。 ・長期休業を利用した補習授業や復習課題を課し、既習単元の定着を図る。
2年	<ul style="list-style-type: none"> ・学習への意欲や規律について指導が必要な場面がある。 ・話し合い活動に対して、人間関係の影響や自分の考えを表現することに抵抗感のある生徒もおり、活発にならないことがある。 ・知識の定着において、生徒間の差が大きい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○興味関心を高められるよう、授業の導入は本時の学習内容と関連付けた生徒の身近な事例や時事を取り入れて学習への意識を喚起する。 ○ICT機器など視聴覚教材を継続的に活用し、思考がスムーズになるような展開をつくる。 ○発問に対し、条件付けをおこない、なるべく多様な生徒と意見を伝えあう場面を設定する。 ・単元の調整をしながら、アクティブラーニングを取り入れ、生徒が主体的に対話して発表する活動を行う。 ・長期休業等において、基礎的な問題のワーク等の課題を出し、小テストを実施し達成感をもたせつつ、知識の定着を図る。
3年	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎基本の習得と定着において、生徒間で差が大きい。 ・生徒同士、各々の思考を討議することが不得手である。 ・既習事項や時事等の根拠を生かした言語活動に参加できる生徒は限定的である。 	<ul style="list-style-type: none"> ○導入は、時事問題を発表させたり提示したりし、興味・関心を喚起することを通して、単元への理解につなげる指導を行う。 ○単元に応じ演習の場を示し、ICT機器等を活用して発表したり議論したりすることを通して、多面的多角的な思考を深めさせる。 ○既習事項を生かしたり、理由・根拠を明確にした発表や議論を行ったりする指導を重ねることで、構想を習慣化する。

○はすぐに取り組むこと